

四国の紙業界マッチングサイト 昨年3月に開設、着実な成果表れる

「四国は紙国」事務局

四 国の紙業界をつなぐ総合マッチングサイト「四国は紙国(しこく)」(<http://www.shikoku-kami.com/>) は、2013年3月の開設から順調に訪問者数を伸ばし、11月には延べ1万人の大台を突破した。サイトに登録された会員企業数も、当初の38社から106社(2013年末時点)まで増加。会員各企業のホームページへのジャンプ数も累計2500件を超えている。

同サイトは、四国産業・技術振興センター(=STEP、洲之内徹理事長)と、紙業界団体の宇摩地区キー産業振興協議会(井上和久会長)が連携して事務局運営に当たっている。四国の紙関連企業およびその商品を容易に検索できるほか、コーディネーターによるマッチングなどを受けられるのが特徴だ。

新規販路開拓や新技術開発など、2013年末までに56件の問い合わせがあり、いくつかの案件については商談成立や試作段階まで進んでいる。一例を挙げれば、天然鉱物剤を塗布した機能紙を使ったマスクやフィルターの共同開発・製造、各種ギフト箱(貼箱・組箱)の共同開発・製造、茶葉の粉末を配合したドライクレープ紙の製造、炭素繊維を練り込んだ混抄紙の製造など。

“オール四国”で業界振興に寄与

事務局では「四国の紙産業について議論した際、これからの発展には『技術開発』『販路開拓』『情報発信』『企業交流』『人材育成』の5点が必要とされた。とりわけ、全ての要素に関わる『情報発信』が重要ということで、バー

チャルな拠点となるサイトを開設した。当面の目標は、会員企業を200社程度まで増やし、企業間マッチング、B to Bによる実績をさらに積み上げること。各県や工業会の枠を超えた“オール四国”で紙業界の振興に貢献したい」としている。

四国は、大小約420社の紙関連企業が立地する一大集積地であり、静岡県に次ぐ工業出荷額を誇る。また、全国に4カ所しかない紙専門の公設試験研究機関のうち2カ所(愛媛県紙産業技術センター、高知県立紙産業技術センター)が存在。2010年には、愛媛大学の大学院に全国初の紙産業特別コースも開設された。こうした強みを最大限に生かし、各社の連携を促進する同サイトの今後に注目したい。



「四国は紙国」のトップページ